

令和元年度 総務委員会行政視察報告書

総務委員長 久米原 孝子

視察日：令和元年10月28日（月）～29日（火）

視察都市および視察項目

- 1 静岡県藤枝市：ふじえだプロジェクトについて
- 2 静岡県焼津市：ドローンを活用した防災対策について
：防災学習室「しえ～る」

1 日目 静岡県藤枝市 藤枝市役所

静岡県藤枝市は人口144,900人。市内全域が名前の通り藤色に統一をされ温かみのあるまちづくりや「蹴球都市」サッカーを核としたまちづくりを感じます。

今回は暮らしの基本「健康」「教育」「環境」「危機管理」4つの頭文字4K政策を掲げて住み続けたいまち、選ばれるまちづくりに様々な角度から取り組んでいる「ふじえだプロジェクト」を視察しました。

選ばれるまちとして若い世代を中心に定住人口が増加。平成29年まで10年連続で転入人口が転出を超過していました。昨年は進展がみられなかったため、新たな定住促進の取り組みを今年度途中から始めるなどスピード感のある政策を感じました。

藤枝市では次年度の戦略に向け6～7月に提案をし、7月下旬にはヒアリング。9月には次年度の戦略を決定。職員の方の尽力を強く感じました。

ふじえだプロジェクトは市民、事業所、行政が一体となって推進。その一つが開始から50年、自治会の枠組みで30年の地域から1,000人の保健委員が守る健康の取り組みです。長年の取り組みで市民2万人が保健委員の経験者となり、守る健康への意識が高いとのことでした。

また民間活力を導入し企業と包括連携協定を締結し官民一体の政策をしています。民間企業へはこちらからアクションを示すのではなく、企業からアクションをいただくという魅力発信力を感じました。

そこにはプレリリースの手法が秘策の一つと感じました。

ふじえだプロジェクトは重点戦略が「健康」「教育」「環境」「危機管理」と大きく4つになっていますが一つ一つで取り組むのではなく4つが一つになり、ふじえだまちづくりをしていました。

龍ヶ崎市においても「子育て環境日本一」「スポーツ健幸日本一」「市民活動日本一」「防災減災日本一」4つの重点目標を今後どのようにすすめていくか。ふじえだプロジェクトを参考にできたらと思います。

2日目 静岡県焼津市 消防防災センター

焼津市は無人航空機（ドローン）を消防・防災分野で活用する事例としては全国的にも先駆けで、先進事例として視察しました。

平成27年7月発生した大雨により土砂崩落が発生。消防本部の梯子車で上空から状況確認を試みましたが接近できなかった。この経験から災害対策本部機能の強化と災害情報の見える化を推進するため同月ドローン1番機目を導入しました。その後、寄贈なども含め現在は13機のドローンを導入し様々な機能を生かし活用をしています。

ドローンは資格を有しなくても飛行は可能ですが資格者は国交省への許可承認申請の際に書類を一部省略できます。焼津市では操縦士資格については資格取得者の職員が講師を務め資格取得者育成をしています。職員が講師を務めることで講習費用がかからないというのは利点です。

平成30年11月焼津市の発展に寄与することを目的に2社と「ドローンの運用連携に関する協定」を締結しました。さらなる体制の強化が期待されます。

災害現場の調査、被災状況確認、防災訓練や水防演習、消防との合同訓練。消防活動時の要援助者検索、活動助教把握に活用されています。防災消防の活用以外に道路、河川、離岸堤、橋梁などの状況調査や海岸の堆積物や浸食状況調査。資産管理として施設損耗確認やレイアウト検討や農政では農道管理、土砂崩落確認、鳥獣対策、鳥獣生息状況調査などにも活用されています。

機材面、運用面でも課題はいくつかありましたが今後ドローンの活躍は期待できると感じました。当日はドローンの飛行も予定をしていましたが雨天のため見られず残念でした。

今回視察しました防災センター1Fにはさまざまな災害に備える最新の防災学習室「しえ〜る」があります。

東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）や熊本地震（本震）、駿河湾沖地震（2009年8月）の揺れなどを体験できる最新の地震体験コーナーや装置異常気象を3D映像で体感できる風水害体験コーナーなど体験や学習ができます。

2Fには消防署と広域の消防救急指令センターの機能を有しTV各局や市内災害状況を確認できるいくつものモニターが設置された災害対策本部が常設されています。災害時にはスピーディーに対応ができるのは参考になりました。防災減災日本一を目標とする龍ヶ崎市においてドローン活用や災害対策本部の常設は必要な取り組みです。

【常設の災害対策本部にて】

